

虹通信

第137号 2010年8月16日発行

発行人・編集人：志水 正敏（志水リウマチ科・内科診療所）

転載される場合は御連絡下さい

ナイアガラの滝



私にとって大変なつかしいナイアガラの滝です。私は少なくとも50回はこの写真のポイントに立ちました。約3年10カ月の間米国ニューヨーク州のバッファロー市に住んだので日本の知人が観光に訪れる度に空港に迎え、その足で高速道路を約30分走りナイアガラの滝まで案内をしたものです。なぜ回数がかかるかと申しますと、滝を正面から見るこの場所に来るために写真左上の橋でカナダ側に渡る際にパスポートに出入国のスタンプが残るからです。

虹が写っていますが晴れた日の午後にこの場所に立ちますと必ず虹を見ることが出来ます。そして時刻が過ぎるに従って虹が高くなって行くのです。大量の水が60mの高さから落下することによる水しぶきが後方からの太陽光線を水滴の中で反射する時に無色の光が七色に分解される訳です。小学校で習い霧吹きで実験もしたのですが、繰り返しこの場所に立ったことで骨の髄まで納得しました。

バッファローでの私は、ニューヨーク州立大学医学部内科に所属し免疫アレルギーの臨床研修に参加する一方で、バッファロージェネラルホスピタル内の研究室で免疫学的な検査法の開発に従事していました。

バッファローは北米のエリー湖畔の町で、5月中ごろから9月末まではいつもカラッとしていて仕事も屋外でのスポーツも楽しかったことを体の感覚として思い出します。

今年の関西は特に残暑が厳しくなると報じられています。

暑さを避けながらしっかりと運動をしてぐっすり眠りましょう。

パラグアイ

では今菜の花が咲いています。7月に志水診療所で帰国時の検診をさせていただきましたパラグアイ在住のOさんが先日送って下さいました。長年パラグアイと日本の親善のボラティア活動を続けておられるOさん姉妹と出会ったこととワールドカップの本戦で日本代表との対決があったことなどで、私のなかでパラグアイへの親近感が随分増しました。9月4日にはキリンカップサッカーで再び代表同士の対戦が予定されており



楽しみにしています。